

ペットは
家族の一員!

ペットも人も 快適なリフォーム

核家族化や少子・高齢化社会を反映し、ペットは「家族の一員」と考える人が増えています。家を建てたらペットを飼いたいと考える人は、平成12年の総理府の調査によれば、半数近くにもなるようです。

でも、ペットと人間は違う生き物。お互いの快適な暮らしを実現するためには、ペットの生活様式・習性などを理解して、共に居心地よく生活するプランを考えていきましょう。

犬を飼うときの注意点

飼う場所が屋外か屋内かでプランニングがかわってくる。犬はもともと群れをつくる動物。家族と共にいることを好むので、外の場合でもお互いの様子がうかがえるような場所（窓越しに姿が見えるなど）だと安心できる。屋内で飼うときは、自由に動き回れる広さを確保してあげたいものです。また、犬は暑さに弱いので夏の居場所には特に気をくばってあげましょう。なお、吠えやすい犬種の場合、できれば防音設計をした屋内で飼ってやるのが近隣に対するマナーかもしれません。

猫を飼うときの注意点

猫はもともと群れをつくらないので基本的にマイペース。屋内で飼われることが多いが、家の内外を自由に行き来することもあるだろう。その場合は、その対策を考えなくてはならない。屋内では、特にトイレの場所を決めてきちんとしつけておくことが肝心。また、猫は家具などの高低差を利用して身軽に動き回ることができ、そのことが適度な運動にもなる。猫の動きを具体的にイメージしてプランしてやるとよい。また、犬と違い、寒さが苦手なので冬の居場所を考えてあげましょう。



ペットの大きさを考慮してあげよう

体の大きなペットを屋内で飼う場合には特に気を配ってあげましょう。十分な広さの寝場所が確保できるか、室内を歩き回るときに家具が邪魔にならないかなど、間取図の中で、ペットの行動をシミュレーションしながら考えてあげましょう。

犬がのびのびできる空間をつくろう



家の中にいるよりも、外で元気に動き回れるほうが犬だって楽しいですね。リビングから直接出られるウッドデッキで自由にあそばせたり、土間スペースや、タイル張りの中庭を造るなどして、ゆるやかに外とつながる工夫もいいですね。「外のような内」の空間をもうけることで、特に大型犬とのストレスフリーな関係を保つことができるのです。飼主も、抜け毛やにおいが気にならず、それでいて犬の気配を感じることができるのです。

散歩から帰ってきたときの工夫

犬の散歩から帰ってきたら、汚れた足を洗ってから家にあげたい。しかし、小型犬ならまだしも、大きな犬を洗面所や浴室まで抱えていくのは大変です。犬を屋内に入れて飼う場合は、勝手口や庭先に足洗い用の流しを設けると便利です。きれいになったら、勝手口のドアやリビングの掃き出し窓から中に入れてあげましょう。リードなどの、お散歩グッズを収納できるスペースも用意しておきましょう。また、下のようにウッドデッキから洗面室に入れるプランはとても便利でオススメ。汚れがひどいと、浴室ですぐに洗えるし、ウッドデッキにも温水シャワーをすぐにとりつけられるので足洗いも冷たくないよ。

大型犬にもラクに使える水道。ガーデンバンがついている。

ウッドデッキは、犬のリビングのスペースにもなり便利。夏の暑さに弱い犬が涼む場所にもなる。

雨の日のお散歩など、汚れがひどいときは、そのまま浴室へ…。





滑らない床はペット快適だよ！

フローリングは、お掃除はしやすいけれど、ペットの足が滑りやすいのが難点です。足や股関節などを痛める原因にもなります。

その対策としては、無垢材のフローリングならすべりにくい、コルク材なども足元にやさしい。カーペットはより安全だが、抜け毛がからんだり、汚れやそそうがあった時に処理に困ることもあります。

パネルタイプのカーペットなら、部分的に取り替えることができるので便利です。



床暖房はペットにもうれしい

最近、床暖房は大人気。人間にとって快適だけでなく、ペットにとってもうれしい設備です。電気カーペットでも代用できるが、コードへのいたずらや引っ掛かりが心配です。その点、床暖房なら安心！！

たとえば、土間風にタイルを敷いた部分に床暖房を入れておけば、夏はひんやり、冬はあたたかなくつろぎの場所になります。テラコッタタイルは掃除がしやすく、汚れ・ニオイ対策にも最適。それに、冬の床暖房がつけばペット大好きのお気に入り空間まちがいなし！！



自分の居場所があると安心ね！

犬も猫も、自分だけでゆっくりくつろげる居場所があることは大切です。できれば部屋の隅のほうで、そこにいとほっとできる場所、そしてなおかつ、家族の目が届く場所がいいね。来客があったとき、人見知りするタイプのペット君には逃げ場所にもなりますしね。お気に入りのおもちゃグッズなどを置いてあげると、より居心地のいい安心のできる居場所になるでしょう。



家の中を自由に行き来できる工夫

ドアを閉めた部屋から廊下へ、屋内から屋外へ、自由に行き来できる小さな出入り口。それがペット用のドアやサッシだ。扉や窓の下部に取り付けられているタイプと、壁面に独立して設置するタイプがある。マグネット付きでペットの出入りのときだけ開くよう工夫されているものや、ロック機能が付いているものもある。



ペットはかわいいけどニオイが困る

屋内でペットを飼っている場合、部屋にはどうしても動物のニオイがついてしまいます。一緒に暮らしている家族は慣れていても、来客は不快な思いをしてしまうかも…。気になるニオイを吸着してくれる壁紙や天井材を選び、ニオイの悩み解決しましょう。脱臭や調湿機能にすぐれた珪藻土の壁材など、天然素材を原料とした内装材があります。珪藻土そのものを壁に塗るのもいいでしょう。もし、つめを研ぐなど傷めても部分補修ができます。



室内の空気をキレイに保つ

抜け毛やダニ・ノミなどで、室内の空気は想像以上に汚れてしまいます。アレルギーの原因にもなります。空気清浄機や換気システムを取り入れたり、掃除が楽になるセントラルクリーナーを設置するなどして、積極的に空気をキレイに保つようにしましょう。



かみぐせ・ツメとぎ対策

犬のかみぐせや猫のツメとぎで、壁や家具に傷をつけられた経験のある方は、きっと多いはず。犬のかみぐせは、ほとんど子犬のときですが、猫のツメとぎは習性なのでやめさせるわけにはいきません。ツメとぎボードを与える方法もありますが、気に入らないと見向きもしません。対策としては、傷がつきにくいタイプの壁紙を選ぶ、ペットの足が届く高さまで硬い材質の木で腰壁を張るなどの方法があります。



そそうしたときの対策

普段はきちんとトイレができていたペットでも、ストレスや反抗心から床にジャーっとオシッコしてしまうことがあります。そんなときにあわてないためにも、始末がしやすく、汚れが付きにくい床材を選んでおきたいですね。ペットとの暮らしを考えてつくられた、防汚性、耐アンモニア性にすぐれた床材も開発されています。

また、猫ちゃんのトイレを人間のトイレの中に(当然人間のトイレは広めにする必要がある)一緒に置いて、トイレのドアに猫用ドアをつけておけば、出入りも自由で、見た目もわるくないし、後始末のあとに流せる、手を洗えるで、便利かもしれません。